

ムギヒサゴトビハムシの食草について

森 和 夫

以前、宝塚市西谷地区において、ムギヒサゴトビハムシ *Chaetocnema cylindrica* (Baly) の採集記録を報告した〔きべりはむし Vol. 19 (1) p, 23 (1991)〕。

今回は、当地における食草を確認することができたので報告する。

本種は、その後、先に報告した境野の他、下佐曽利でも採集できた。食草が各地に普通であるのに反し、今のところ、この2ヵ所の極めて狭い範囲でしか見出せなかった。

前述の2ヵ所で確認できた食草は、カヤツリグサ科の下記の2種であった。

① キンキカサスゲ

Carex amplifolia dispalata var. *takeuchii* (Ohwi) 12, VI, 1993, 境野

② アゼスゲ

Carex thunbergii Steud

29, V, 1993, 佐曽利, 12, VI, 1993, 境野

境野においては、キンキカサスゲとアゼスゲが混生し、いずれからも採集することができた。下佐曽利の発生地では、アゼスゲしか生えていなかった。

上記の食草の種名は、室井 綽博士に同定して頂いた〔学名は、原色日本植物図鑑、草本編（下）、保育社刊を参照した〕。

室井博士には、紙面を御借りして厚く御礼申し上げます。

ムギヒサゴトビハムシは、食草と共に自宅へ持ち帰り飼育した。しかし、食草は直ぐに枯れてしまったため、自宅周辺の雑草を代用とした。

よく食べた植物は、

- 1) イグサ科；イ、クサイ
- 2) カヤツリグサ科；ヒメクグ、タガネソウ
- 3) イネ科；スズメノカタビラ

であり、ススキ、ジュズダマ、メヒシバは好まないようであった。

また、最初は10数頭を飼育し、交尾もしていたが、産卵させることはできなかった。最後の1頭は、7月14日迄生存していた。